

うたごえ新聞

1 / 5・12

<新春号>

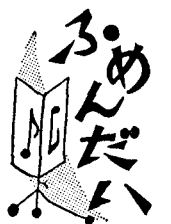
NO. 591 (1976年)

THE SINGING VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙
発行 うたごえ新聞社 東京都新宿区西大久保3-60-03(209) 0638-9 振替口座
東京5631 昭和34年1月31日第三種郵便物認可
毎週月曜日発行 月250円(一部宛60円)



東京・浅草寺の蛇踊り



田村一郎氏からブルガリアの合唱運動、林光氏からうたごえの魅力、展開定時制高校の四人娘から人間の強さ、親子はどコーラスの新味、そして年女・年男の抱負をいだいてその声は嗚咽(のよりのよ)と。

十二支の中で、ただ辰のみが仮空の存在らしい。この十二支たち(兄(え)弟(と))の仲だが、うたごえ運動は十二の「音楽えと」を越えて広がりたい。

あかつきの大合唱の歴史を知らば、それを団内の飲み会や顔合わせに終わらせることほど、沖縄と運動を無視したものはない。

弟子「今年こそはと努めても進歩がないように」「高橋」そう心がはたかっていることが成長じゃ」「この松も故郷(くに)の香りと音(こゝろ)がして(未)

続・見えざる歌謡界

昨年、沖本西郎氏に連載してもらった「見えざる歌謡界」は、読者から大きな反響がありました。それも画面に隠された事実をまさに氷山の一角。本紙編集部では、マスコミ文化を健全化する立場から、ここに「続・見えざる歌謡界」を再び追うことにしました。

昨年末、かぞえ切れないほどの「賞」が乱発され、歌の良し悪しは別に多くの文化人(音楽関係者)にすら非難が上っている。そして歌手の売り込みは異常なほど。大賞シーズンになるとさらにエスカレート。

はこうだ。赤いじゅうたんの敷きつめられたホテルの大ホールで、発起人の石原裕次郎や坂田元治が顔をみせ、「記者の間を制服のホステスやパニーカールが飲み物を持って」「スイス時計やアメリカ製ゴルフセットなど、豪華景品が当たる大抽選会」(放送レポートより)

といった具合だ。その数日後の新聞や雑誌には、八代亜紀の記事が連発的に紹介されることとなる。

NTVのS氏によると「記者やカメラマンを集めてハワイあたりに招待する。旅費から宿泊費はもちろん、ドンチヤン騒ぎ、みんなレコード会社やプロダクション持ち。それだけでもなされたら悪い記事は書けないどころか、グラビアを飾る記事が紹介されることになると、真顔で話してくれませぬ。もちろん、真面

目な報道人、マスコミ関係者がいることも事実だが。そんな中で、沖本氏が既報したように、テレビ歌謡祭の出演料は大スターでも驚くほどの収入しかない。(出演者は画面に映る時間の何倍もリハールなどに走りまわる)そこで売れっ子歌手は、日にかけた地方公演を打つ。唯一の収入だから、スイミン時間が少ないのは、テレビ局と地方のトンボ返りにも一因

—新春号の主な記事—

- 新連載「ブルガリアの合唱運動」／日本のうた「え祭典と京都の運動」うたは闘いとともじ 2面
- 若者の民謡探険／クイズ／マスコミの谷間で 3面
- ／林学創作裏話 3面
- 新春発言(運動30周年にむかって) 3面
- 合唱の魅力を探る／プロムナード4・5面
- 特別「ある高校生の青春」 6・7面
- マンガ／新譜「私の愛した街」 6・7面
- 新春訪問・林光さん 8面
- 新年の映画案内(五子順) 8面
- 新連載「声のよくなるお話」／年女・年男の抱負／北から南から 9面
- 走馬燈「山梨・滋賀・東京 なかまの時／ちょっと映像／不楽々」 10面
- キラパ・ジョン／新春TV・ラジオ番組 11面
- 最近のレコードから／正月の遊び 音楽会案内／アイドルさん 11面
- 創作・紹介曲「心の中のチリ」 「みんな集まれ」 12面